

源氏物語

源氏物語の伝本系統は、三つに大別される。藤原定家が本文整定した青表紙本、河内守源光行・親行父子が整定した河内本、そしてそのどちらにも属さない、さまざまな諸本を総称した別本の三系統である。これをとりまく後世の注釈書・梗概書・俗語訳などを、今回とりあげてみたい。注釈書は、一般に江戸初期、北村季吟によって書かれた「湖月抄」（延宝元年（一六七二）成立）あたりまでを古注、それ以後を新注という。

1 本文

- (1) 源氏物語 版本三十四冊（六十冊の内一～三十三、系図） 美濃判 絵入 無刊記 十一行書き 黒川真頼書入

(2) 源氏物語

写本五十四冊 美濃判 十行書き 奥書なし 各巻内題なし 萩原広道朱注 第一巻表紙に貼紙「源氏物語評釈草稿本六部ノ内一本」とある。萩原広道の著書「源氏物語評釈」の作成の為、使用された一本であろう。

(3) 源氏物語

河内本 (山岸文庫)

2 注釈・梗概・俗語訳

冷泉為相卿筆 写本一冊（早藤・宿木） 半紙判 綴帖装 八行書き 奥書なし 「冷泉為相卿改札」一枚 月明荏蔵印（反町茂雄）あり

(1) 河海抄

四辻善成著 写本二十冊 半紙判 十二行書き 寛正六年（一四六五）・文明四年（一四七二）の奥書写あり 正平十七（一二二二）年（一三六二）頃成立。「源氏物語」の初期の研究を集大成したもので、後世の注釈に多大な影響を及ぼしたといわれる。

(2) 仙原抄

長慶天皇著 写本一冊 美濃判 元禄五年（一六九二）松扁六窓主人写 内題なし 弘和元年（一三八一）成立。「源氏物語」の語彙を注し、これをいるは順に配列したもので、辞書体としてあらわれた最初のもの。

(3) 花鳥余情

一条兼良著 写本十五冊 半紙判 十二行書き 奥書なし 文明四年（一四七二）成立。「河海抄」の誤りを訂正し、補足することを目的として書かれたもので、語句よりも文意をとることに重点をおいた注釈書。

(4) 孟津抄

九条植通著 写本三十一冊 美濃判 十行書き 第三冊の終 天正二十年奥書写 第九冊 (黒川文庫)

の終 文禄三年（一五九四）、第三十一冊の終 文禄二年（一六九三）
中臣祐範奥書写
天正三年（一五七八）成立。「河海抄」「花鳥余情」「弄花抄」等を参考に
して、不足のところを自説をおぎなしたものである。後世への影響力は比較的少な
く、伝本も少ない。

(5) 源氏物語 講釈を聴聞したもの、自説を本文に書き込んだ注釈書。
源氏物語 講釈を聴聞したもの、自説を本文に書き込んだ注釈書。
写本二十四冊（五十四巻） 美濃判 十行書き 奥書なし 「江戸中期」写
題簽に「源氏物語抄号覚勝院抄」とあり。傍頭注、朱注 第二十一冊東屋の
奥に「公晴書之」とあり。元亀二年から天正七年（一五七九）頃成立。「河海抄」、
「花鳥余情」などの古注及び晩年の三条西公条（称名院）、三条西実枝（三光院）
の源氏物語講釈を聴聞したもの、自説を本文に書き込んだ注釈書。

(6) 源氏表白 樹形本 綴帖装 六行書き 料紙色替り 奥書なし
源氏供養の文で、漢文体の「源氏一品経表白」、仮名文体の「源氏表白」、
物語化された「源氏物語表白」などの種類があり、本書は文中に物語の巻名
を配した仮名文体の表白である。

(7) 源註拾遺 契沖著 美濃判 元禄九年（一六九六）契沖奥書写
契沖著 美濃判 元禄九年（一六九六）契沖奥書写
写本七冊 契沖著 美濃判 元禄九年（一六九六）契沖奥書写
実証主義的方法により、注釈史上において新注の時代を画した書といわれる。

(8) 源註余滴 石川雅望著 美濃判 奥書なし
源註余滴 石川雅望著 美濃判 奥書なし
写本二十四冊 美濃判 奥書なし
（黒川文庫）

契沖の「源註拾遺」、賀茂真淵の「源氏物語新釈」、本居宣長の「源氏物語
玉の小櫛」などの新注の成果を活用し、適切な取捨選択を行ない、自説を導
きだしている。

(9) 源氏小鏡 伝 耕雲（花山院長親）著 無刊記 丹表紙 原題簽
源氏小鏡 伝 耕雲（花山院長親）著 無刊記 丹表紙 原題簽
黒川文庫本（秋田屋平左衛門 慶安四年版）と版式同じく、更に鮮明な版で
ある。「源氏大鏡」と並ぶ代表的な梗概書で、各巻の梗概を述べ、物語の和歌の主
なもの、源氏大鏡と並ぶ代表的な梗概書で、各巻の梗概を述べ、物語の和歌の主
なものを引く、連歌のために著わされたものといわれる。

(10) 源氏雲隠抄 浅井了意著 美濃判 「延宝頃」刊 付「雲隠六帖」 外題「源氏抄」
源氏雲隠抄 浅井了意著 美濃判 「延宝頃」刊 付「雲隠六帖」 外題「源氏抄」
岡田真蔵印あり 名のみあって実のない雲隠の巻を後世偽作した「雲隠六帖」の
注釈書。

(11) 紫文あまのさへずり 多賀半七著 美濃判 絵入 享保八年（一七二三）江戸 須原屋 茂兵衛刊
紫文あまのさへずり 多賀半七著 美濃判 絵入 享保八年（一七二三）江戸 須原屋 茂兵衛刊
（常磐松文庫）

欄外注「英王堂蔵書」（バジル・ホール・チェンバレン 一八五〇）
一、九三五の蔵印あり
桐壺から宿木まで四十九帖の俗語訳書。